

2024年12月10日

〈ニュースリリース〉

アサヒビール株式会社
キリンビール株式会社
サッポロビール株式会社
サントリー株式会社

環境負荷の低い缶蓋「EcoEnd™」を ビール類に初採用

— 温室効果ガスの排出量を約4割^{※1}削減 —

アサヒビール株式会社（代表取締役社長 松山一雄）、キリンビール株式会社（代表取締役社長 堀口英樹）、サッポロビール株式会社（代表取締役社長 野瀬裕之）、サントリー株式会社（代表取締役社長 鳥井信宏）は、缶蓋の製造時に発生する温室効果ガス（以下GHG）の排出量が約4割^{※1}少ない飲料缶蓋「EcoEnd™」を2025年2月以降順次、各社が販売するビール類の一部商品に採用します。

「EcoEnd™」は、GHG排出量削減の有効手段のひとつとして東洋製罐株式会社と株式会社UACJが共同開発したもので、酒類・飲料業界での本格的な採用は初めてです。

※1 東洋製罐株式会社の従来品比。缶蓋1枚当たりの削減量。



これまで酒類・飲料業界では一般的に、材料の加工性を確保するために多くのアルミニウム新地金^{※2}（以下、アルミ新地金）を使用した飲料缶蓋を採用していました。アルミ新地金は製造時に大量の電力を使用するため、リサイクル材と比較して多くのGHGを排出し、環境負荷を高めることが課題となっています。「E c o E n d[™]」は、アルミニウム溶解後の成分調整と製造技術の開発により、アルミ新地金の使用量を41%減らし、リサイクル原料^{※3}の割合を75%に増やしています。結果、従来の飲料用缶蓋と同等の品質を担保しつつ、GHG排出量の約4割削減を実現しています。

※2 ポーキサイトから精製したアルミナを電気分解により製錬し、アルミニウムの純度を99.70%以上に高めた圧延・押出・鍛造・鋳造等アルミ製品用の原材料のこと

※3 GHG排出量はアルミ新地金の3%

ビールメーカー各社では、持続可能な社会の実現に向けて業界をあげて取り組むべく、流通量の多いビール類から「E c o E n d[™]」を採用することとなりました。環境負荷を低減する資材を4社共通で採用することは国内初のことであり、持続可能な社会実現に向けた意思を示すものと考えます。今後も、ビール類以外の商品への採用も各社ごとに検討していきます。

引き続き各社が事業活動における環境負荷の低減を推進し、「カーボンニュートラル社会の実現」に貢献すべく、新たな取り組みや技術の開発・採用に積極的に挑戦していきます。

▼「E c o E n d[™]」について

東洋製罐株式会社：

https://www.tskg-hd.com/news/detail/20240709_newsrelease.html

株式会社UACJ：<https://www.uacj.co.jp/release/20240709.htm>

以 上